

<全体分析>

試験時間 2科目で150分

解答形式

客観式19個(選択式10個, 記述式9個), 論述式17題(1行×3, 2行×12, 3行×2, 計33行)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

客観式の解答数は9個増加して19個となったが, 論述問題の数は昨年度の19題から2題減少し, 行数が6行減少したため, 分量に変化はない。内容的には, 書きにくい論述問題も含まれるが, 頻出のテーマが多く, 全体の難易度は昨年度と大きな変化はない。

出題の特徴

人間活動が自然に及ぼすさまざまな影響, 世界の第一次産業(農林水産業)の特徴とそれにともなう問題, 地形図の読図や災害とその対策, 日本の人口動態や大都市圏・地方の現状や生じている問題など, これまでの東大本試で問われた内容が切り口を変えて出題されている設問もあり, 過去問の学習が必要である。さまざまな地区と地理情報を扱った主題図が近年多用される傾向にあるが, 本年度は南アジア地域の分布図が出題された。

その他トピックス

昨年度に続いて, 地形図を用いる問題が出題された。第1問設問A(5)のプラスチックに関する問題については, 冬期講習東大地理の第3講で扱った。第1問設問Bのメタンや水田については, 第2回東大入試オープンで扱った。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	選択 記述式 論述	人間活動と 地球環境の関わり	設問Aは, 16世紀が大航海時代, 18世紀後半が産業革命期, 1950年代が東西冷戦期の核開発競争など, 時代や時期が想像できることが重要である。設問Bは, 南アジアの自然環境と生業を関係づけてまとめよう。	標準
第2問	選択 記述式 論述	第一次産業の 国際比較	設問Aの養殖業に関する問題は, 比較的書きやすく, 高得点を目指したい。設問B(2)の指定語句は, 素直に使おう。設問B(3)の「肉類消費」は, 小麦を飼料として利用することに気がつきたい。	標準
第3問	選択 記述式 論述	居住と自然環境	設問A(2)の地形図読図で, 谷間が「荒地」であることに気づくと(3)も書きやすい。設問B(3)は, 大都市圏への人口集中と, それにともなう地価の高騰を関係づけてまとめよう。設問B(4)の住宅総数の長期的な増加は, 核家族化による「世帯規模」の縮小と関連させたい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 客観式問題での得点が合否にかかわるため, 教科書や共通テスト(センター試験)の過去問などで基本的知識を習得しておきたい。
2. 指定語句を使ったり, 資料から判読できることをもとにコンパクトにまとめることが求められているので, 60字程度の短い論述演習を繰り返しておこう。総字数も多く, 限られた時間で論述する力を身につけておきたい。
3. 統計を解釈する問題が頻出しており, 統計のもつ意味をきちんと理解した学習が求められる。
4. 日本の変化に関する問題が頻出であり, 「高度経済成長期」, 「石油危機」, 「円高」, 「バブル崩壊」, 「都心回帰現象」, 「知識経済化・情報社会化」など, 時代を理解するキーワードをもとにそれぞれの時期の特徴を理解しておきたい。
5. 日本に関しては, 具体的な地域についての知識よりは, 大都市圏と地方圏, 大都市圏内の都心と郊外, 地方圏における中心都市など, 機能からみた地域の特徴を把握しておきたい。
6. 地形については, 地形図だけでなく, 標高分布図や地形区分図などの図が出題されることも予想される。典型的な地形の地形図から具体的な地形がイメージできるようにするとともに, 新旧地形図の比較も練習しておこう。